

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立鶉小学校

校長名 小出 直弘

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を有機的に機能させ、情報共有や進捗管理を適切に行い、「チーム学校」として運営する。特に生命の尊厳を理解し、いじめや問題行動、不登校対応など、迅速かつ組織的な対応に努める。 ・誰一人取り残さない個別最適な学びや岐阜市版GIGAスクール構想について家庭・地域と共に推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの防止や命の尊厳・人権意識の醸成に努め、学校評価で90%以上が「よい・おおむねよい」と回答した。 ・ICTを効果的に活用できていると学校評価で90%以上が「よい・おおむねよい」と回答した。 ・不登校対応や問題行動など、家庭や地域・関係機関と連携して行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に向けて、年間を通じて児童や保護者に啓発してきた歩みが素晴らしい。犯罪行為に該当するいじめは、関係機関との連携が必要であり、保護者もそのことを理解して責任を果たすことや地域が家庭を支えていくことが大切である。 ・児童のICTの活用が促進している。情報機器について大人が学ぶ機会が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が連携し、命の尊厳を理解し、いじめや問題行動、不登校対応などから児童を守るチーム学校の体制を強化していく。特に、大人が児童を取り巻く環境を理解し、健全育成に向けてよりよい生き方を示したり、よさを価値づけ伸ばしたりして、豊かでたくましい鶉の子を地域で育成していく。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えを自信をもって表現し、仲間と学び合う児童」の育成を図る授業、児童主体の授業を目指し、常に授業改善に努める。 ・特別な教育課程「英語科」の研究と授業公開を行い評価・改善を図る。 ・地域と協働し、生き方を探究するカリキュラム・マネジメントを確立する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力学習状況調査を踏まえた改善プラン研修や校内研究会、外部講師による指導、OJTの日常化、教科担任制など、積極的に行い、学校評価で、85%以上が「よくわかる・わかる」と回答した。 ・地域の人、もの、ことを積極的に活用した生き方を探究するカリキュラムを作成し、PDCAサイクルで評価・改善を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年が主体的に楽しく学習していた。校内全体の特別支援教育が充実しており、支持的風土により一人一人が安心して自分の力を発揮することができている。 ・低学年から英語を楽しみながら学ぶカリキュラムが整っている。 ・教科担任制など専門性を生かした教育により質の高い学習が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力学習状況調査を踏まえた校内研究や、OJTでの学び合いを継続していく。 ・特別支援教育の研修を次年度も行き、児童が主体となる学びを深めていけるようにする。 ・教科担任制をはじめ、地域の人材等も含めた専門性を生かした授業を積極的かつ効果的に行い、資質・能力の育成に努める。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材等を意図的計画的に積極的に活用し、子どもの夢や希望を育む学校づくりを推進する。 ・幼保小連携や小中一貫教育を推進し、指導法改善に努める。 ・学校評価の実施・公表をすると共に、学校運営協議会での議論を通して学校運営の改善を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と保育園の教職員が小学校の参観をしたり、作品の交流をしたり、加えて、中学校区で学習・生徒指導・食育・特別支援における指導内容を共有したりして、子どもの育ちを12年間貫いた指導を行った。 ・様々な部会の学校支援推進委員の協力により、子どもに豊かな体験や安全面の支援を年間通じて行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生が安心して学校生活を送ることができている。6年生が卒業・進学に向け、落ち着いた姿で学習することができている。 ・学校評価アンケートから、児童が自身の成長を分析する力が付いている。学校での学びを家庭や地域で実践できるよう、地域の支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中の教職員が互いに学び合い、児童生徒が安心して学びを楽しむことのできる教育課程を編成したり、指導法改善に努めたりする。 ・生き方を探究するカリキュラムを作成し、PDCAサイクルで評価・改善を図り、中学校校区で目指す姿の具現に努めていく。
教育環境と学校財務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを効果的に活用し、「働き方改革」を推進する。 ・財務や納入金の適切な取り扱いの確認と有効な運用に努める。 ・個人情報の適切な管理に努める。 ・施設設備や教材教具、ICT機器の定期的な整備・点検を行い、適切に管理する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを効果的に活用し、資料のデジタル化を進め、ペーパーレス化の目標値を十分達成した。働き方改革も同時に推進できた。 ・事務職員の積極的な参画により財務環境の指導と管理の徹底ができた。 ・教室環境の整備や設備の点検を定期的実施し、学びやすい環境となるよう効果的に財務の運用を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を進めることにより、授業の質が向上し、児童の自己肯定感も醸成されることを実感した。 ・校内のどこを見ても、美しく整頓されており、安心・安全な中で児童が学ぶことができている。 ・校舎をはじめ常設の物が古いこと、机やロッカーの大きさが適していないことなど、時代に沿った環境が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい児童の育成を目指し、働き方改革をさらに進めていく。特に、取り組みによる効果の検証を行い、システム化し、質の高い教育に労力を注ぐことができるようにする。 ・日頃から整理整頓を心がけ、個人情報や物品、お金などの管理をする時間を計画的に位置付け管理徹底を図る。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な非常事態に対応できる危機管理マニュアルを作成し、家庭や地域・関係機関等と連携しながら、防災教育やいじめ防止などに努め、「いのち」を守る教育を推進する。 ・交通事故の未然防止に向け、家庭や地域と連携しながら命を守る教育活動や見守り活動を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な非常事態を想定した防災訓練を実施し、よりよく考え行動する子どもを育成した。学校評価で90%以上が「よい・おおむねよい」と回答した。 ・子どもの問題行動を防ぐ危機管理や怪ものの防止、安全管理と安全教育の徹底、子どもの自己指導能力の育成は常時必要なため、家庭・地域と連携して継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、火災、ミサイル、河川の氾濫による垂直避難、不審者対応など、様々な訓練を実施していることが分かった。 ・地域の大人が通信機器について学び、問題を未然に防いだり、早期に解決したりできる機会が必要である。犯罪から児童を守るために、家庭だけの責任にするのではなく、地域の大人が守る仕組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常事態を想定し、臨機応変に対応する安全教育と安全指導の充実を図る。 ・道徳の授業などをはじめ、公德心を大切にした教育を全教育課程で行い、地域社会の中でよりよく判断して行動できる児童を育てる。 ・いじめや問題行動を未然に防ぐ通信やGIGA開きなどを通して、大人が児童の安心安全を守る術を学ぶ機会をつくる。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/uzura-e/>